



災害派遣医療チーム **D**isaster **M**edical **A**ssistance **T**eam (通称：DMAT) ディーマット

DMATとは、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームである。

【第一話】

DMAT誕生

平成7年1月17日、「阪神・淡路大震災」が発生し、死者・行方不明者64,255人、負傷者4万3,772人という大災害となりました。

この震災では、初期医療体制の遅れにより、平時の医療が提供されることが多く発生しました。もし、適切な医療が提供されていたら助かったと考えられる「避けられた災害死」が、500人は存在した可能性があったと後に報告されています。

このことをきっかけに、災害医療の重要性・必要性が認識され、「一人でも多くの命を助けよう」と厚生労働省により、災害派遣医療チーム、日本DMATが平成17年4月に発足しました。

【第二話】

DMATの隊員たち

DMATは、医師1人、看護師2人、業務調整員1人の4人が基本的な構成となつ

ています。

隊員は専門的な研修・訓練を受けた後に日本DMATに登録され、日本全国のDMAT指定医療機関（主に災害拠点病院）に所属します。

主な任務は、被災地における①医療情報収集と伝達②トリアージ、応急処置、搬送③被医療機関、特に災害拠点病院の支援・強化など多岐にわたります。おおむね48時間とされる急性期に速やかな活動を開始します。

【第三話】

磐田チーム発足

磐田市立総合病院は、平成11年に災害拠点病院に指定され、平成26年にDMATを配置しました。

現在、県内災害に対応する静岡DMAT隊員を含めた医師や看護師など12人の隊員が所属しています。

将来予想される南海トラフ地震やさまざまな災害に備えて、隊員たちは訓練に励んでいます。

突撃

① 所属隊員

日本 DMAT	医師	2人
	看護師	4人
	業務調整員	4人
静岡 DMAT	看護師	1人
	業務調整員	1人

※令和2年7月3日現在

② エンブレム



磐田市立総合病院 DMAT

市内唯一のDMAT、「磐田市立総合病院DMAT」を紹介します。

③ 装備



直撃

DMAT 隊員にインタビュー

Q これまで災害現場に派遣されたことはありますか？

A DMATは全国の各ブロック内で優先的に派遣依頼を受けますが、幸いにも中部ブロックは大きな災害に見舞われていないため、当院のDMATがチームで派遣されたことはありません。

しかし、平成30年10月に台風24号による大規模停電が市内で起きた際は、チームで対応に当たりました。また、今年2月に新型コロナウイルス感染症がクルーズ船で感染拡大した際は、多くの感染者を受け入れた愛知県へ当院の隊員が交代で派遣されました。現場の後方支援がメインで、情報収集や伝達などを実施しました。

Q 災害医療で大切なことは何ですか？

A DMATの意義でもある「一人でも多くの命を助ける」ことが何より大切になります。そのために重要なことは、必要な医療が提供できなくなる「医療崩壊を起こさない」ことです。病院がもしものために備えておくことはもちろんですが、それでも災害時は大幅な医療対応力不足が予想されます。軽傷時に、すぐに病院に詰めかけたり救急車を呼んだりせずに、市民同士で処置や搬送などをしていただくことが、多くの命を救うことにつながります。「自助」「共助」が大切です。



磐田市立総合病院 看護師長
日本DMAT 隊員

高橋 美千子さん
Takahashi Michiko